

八丁池・皮子平生物群集保護林

管轄森林管理局・署 関東森林管理局 伊豆森林管理署

所在地 静岡県伊豆市

面積 716.03ha

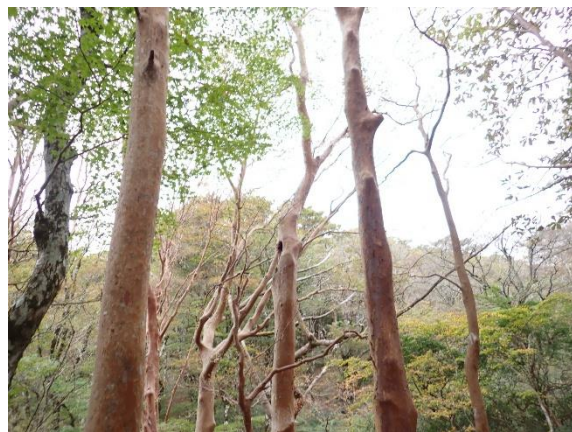
設定年 平成3年(設定)、平成30年(統合・名称変更)

保護林の概要
(設定目的)

八丁池周辺は、約15万年前に活動を終えた火山である天城山の西麓にあり、ヒメシャラを特徴とするブナを主体とした天然林である。一方で、皮小平は、約3千年前と地史的に新しい時期に噴火した溶岩上に成立している、モミやブナを主体とする天然林である。この一帯は、火山地形上に成立した天然林であるといった共通性を有しながらも、地史的には、新旧を対比できる特徴を有している。このため、火山地形の歴史を反映しているブナ・ヒメシャラ・モミを主体とした地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理することにより、森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護、森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に資するため設定する。



保護林内の状況



ヒメシャラ生育状況

モニタリング調査概要

実施年度 平成22年、平成27年、令和2年、令和7年

調査項目 資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(樹木の生育状況調査、下層植生の生育状況調査等)、動物調査(哺乳類及び鳥類)、聞き取り調査

調査手法 森林詳細調査として、ブナ群落、ブナ-ヒメシャラ群落、ブナ-アセビ群落において調査プロットを計6箇所設定し、樹木の胸高直径、樹高の計測及び植生の種組成の概要を把握。動物調査として、調査プロットまでの経路に2つ調査ルート設定し、保護林内における出現種を把握。森林生態系多様性基礎調査の結果も活用。

結果概要 ニホンジカによる剥皮や枝葉食が確認され、全体的に下層植生は減少傾向であることから、ニホンジカの採食圧による影響がみられた。一方で、保護林内に設置された植生保護柵内では植被率が増加していたことから、植生保護柵の設置は有効である可能性が高いことが確認できた。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。